

## 【ユニット】 地域医療とチーム医療

### 【ユニットディレクター】

UD：柴崎 智美（医学教育学）

UD 補佐：米岡 裕美（教養教育） 金田 光平（医学教育センター）

### 【一般的な目標】

医師は病気の治療や予防のために診療や保健指導などを行い、ひとの生命・生活・人生に深くかかわる職業である。また、医師は医療及び保健指導を掌ることによって、公衆衛生の向上及び増進に寄与もって国民の健康な生活を確保する（医師法第1条）という社会的責任がある。少子高齢化や医療費増大、人口減少社会を迎える地域社会・医療の課題を解決するために必要な基本的な知識、技能、態度、価値観を身につけることを通して、将来地域・社会で役に立つ医師になるための素養を育む。

### 【具体的な目標】

地域社会における健康関連事象に関する課題に関心を持ち、その現状を把握し、原因に関する知見や現在社会でとられている対策を理解することを通じて、医師としてその課題の解決方法を考えるための知識・技能・実践する能力を身につけるとともに、社会医学的・予防医学的な心を持ち、地域医療に貢献できる臨床医となるための素養を育む。特に、臨床の現場で地域の患者さんを診察する際に、個人を通して地域の課題を発見する視点を身につけ、患者や地域住民を含む多様な専門職（人々）とともに、課題を解決する力を身につける。

1. 地域医療の現状と課題を説明できる。
2. 地域医療構想・地域共生社会・地域包括ケアの概念を説明できる。
3. 地域医療における生活習慣病予防をはじめとしたプライマリケアの実践方法について説明できる。
4. 家族や地域といった視点を持ち、心理・社会的背景により配慮した医療について説明できる。
5. 健康問題に対する包括的アプローチの方法について説明できる。
6. 病歴・身体診察を重視した診断推理の方法について説明できる。
7. 地域医療において自己、患者、住民を含むチームメンバーの専門性を理解し、医師の役割と能力の限界について説明できる。【7-(2)】
8. 多職種の医療者がそれぞれの専門性を活かし連携して医療にあたっていることを説明できる。【1-(3)】
9. 実際の現場で患者中心の医療を提供するために、これらの知識を応用できる。
10. 自己の行動を振り返り、自らの行動を変えることができる。【4-(3)】

### 【学習方法】

このユニットでは、学内外の実践者を講師として迎え、医師としての基本的な考え方や知識を学ぶだけでなく、様々な学習場面での知識や考え方を問う内容を扱う。遠隔の形態であっても、その時間に参加し、講義を時間通りに受講することを基本とする。受講時には、主体的に参加し、当事者の声や具体的な事例について、ひとりひとりの学生が自分の頭で対象とする Life（生命、生活、人生）を想像し、考え、自分なりに理解することを求める。

術語を理解し覚えるだけでなく、理念や考え方、制度の概要、社会的背景を理解し応用できることが重要である。講義に能動的に参加し考える理解しようと努めることが最も効果的な学習方法である。

具体的には以下の通りである。

1. 事前に関連する参考書を読み、各講義のキーワードをノートにまとめるなど準備をしてから講義に参加する。
2. 講義には必ず出席し、教員の説明を良く聴いて、概念や実際の事例をイメージする様に努力する。

3. 講義終了後できるだけ早めに、講義資料を元に関連する教科書や国民衛生の動向等を読んで術語の整理、シラバス本文について2～3行で記述するなどの復習を行う。
4. 自己学習ノートを作成するなど、理解を深めるとともに、講義資料に掲載されている図表の示す意味を読み取る力、それらについて記述する力を高める。
5. 日頃から地域社会での健康に関するマスコミの報道（ニュース、新聞等）に関心を持ち、その背景や原因について考える習慣をつける。
6. 本ユニットが評価担当となっているマイルストーン関連して講義で学んだことを記述する。

### 【評価方法】

本ユニットは演習ユニットのため、75%以上の出席を求める。やむを得ない理由に該当するかどうかは学生便覧に記載されたルールに則って判断される。やむを得ない理由以外で出席不良の場合には、評価の対象とならないので、十分注意すること。

1. 演習の出席は、時間中あるいは時間後に提示される演習（小テストまたは感想等を記入）の提出状況から確認する。
2. 学年末の定期試験期間中に試験を行う。ユニットの評価は、定期試験の結果と講義内で行われるグループワークの参加態度やレポートの提出状況、提出内容を総合的に評価する。必要がある場合のみ再試験を1回行う。
3. 本ユニットが担当する全てのマイルストーンへの合格を求めている。マイルストーン評価は、該当する講義の出席要件の小課題あるいは定期試験で評価を行う。マイルストーン評価で不合格の場合には、補習を行い再評価を行う。

### 【教科書】

- ◆ 地域医療学入門，診断と治療社 2019年8月9日発行

### 【参考書】

- ◆ IPWを学ぶー利用者中心の保健医療福祉連携ー 埼玉県立大学編 2009年4月15日発行 中央法規出版
- ◆ 地域医療テキスト 医学書院
- ◆ 国民衛生の動向 2019/2020、厚生統計協会，厚生統計協会（8月末刊行予定）
- ◆ 公衆衛生がみえる 2018-2019、メディックメディア
- ◆ 内科診断学第3版、医学書院
- ◆ 日常診療に使える臨床統計学 2005 能登洋，羊土社
- ◆ 中根晴幸著 次代を担う医療者のための地域医療実践読本 幻冬舎 2017
- ◆ 朝倉内科学書第11版 I p184～188
- ◆ 高齢者介護実践ガイド 和田攻編集（文光堂）
- ◆ 医師のための在宅ケアと在宅治療ガイド MedicalPractice（文光堂）
- ◆ 看護のコツと落とし穴 6 老人看護/在宅看護（中山書店）
- ◆ 在宅ケアマニュアル 津田司・新津ふみ子編（医学書院）

### 【授業予定表】

	月日	曜日	時限	講義名	担当者
地域01	08月23日	(火)	1	地域医療・地域保健の考え方	柴崎（医学教育学）
地域02	08月23日	(火)	2	わが国の健康課題と地域医療の現状	柴崎（医学教育学）
地域03	08月24日	(水)	2	地域医療とプライマリケア	大野（医学教育C）

	月日	曜日	時限	講義名	担当者
地域04	08月24日	(水)	3	地域診断と臨床診断のプロセス	大野 (医学教育C)
地域05	09月01日	(木)	6	地域における感染症の流行モデルとその応用	荒木 (医学教育C)
地域06	09月08日	(木)	1	連携を基盤とした在宅医療1	中井 (医学教育C)
地域07	09月08日	(木)	2	連携を基盤とした在宅医療2	中井 (医学教育C)
地域08	09月14日	(水)	1	ライフサイクルと家庭医療	市川 (ハーモニーC)
地域09	09月22日	(木)	1	地域における健康行動科学	柴崎 (医学教育学)
地域10	09月22日	(木)	2	高齢者・障害者のケア	柴崎 (医学教育学)
地域11	09月28日	(水)	2	地域包括ケアからケアする社会へ	中野 (東埼玉総合病院)
地域12	09月28日	(水)	3	地域医療ネットワークシステム	中野 (東埼玉総合病院)
地域13	09月30日	(金)	4	職場と地域のメンタルヘルス	吉益 (総セ神経精神科)
地域14	09月30日	(金)	5	在宅医療	齋木 (国セ総合診療内科)
地域15	10月13日	(木)	2	地域医療における緩和医療	岩瀬 (緩和医療科)
地域16	10月13日	(木)	3	こどもの健やかな発達への支援	高橋 (地域医学推進C)
地域17	10月13日	(木)	6	公衆衛生の光と影	淵上 (さいたま北部医療C)
地域18	10月14日	(金)	1	地域医療に従事する医師の職場と学校における役割	柴崎 (医学教育学)

#### 【備考】

講義をしっかり聴講することが重要である。具体的な目標の最後に【】で示されているのはマイルストーンに該当している。本ユニット終了までにマイルストーンが達成できるようにマイルストーンを意識しながら講義を受講すること。

## 【ユニット】

地域医療とチーム医療

## 【ユニットディレクター】

柴崎 智美（医学教育学）

## 【コンピテンス】

1. 社会人および医師としての基本姿勢
4. 自ら学ぶ姿勢
7. チーム医療

## 【マイルストーン】

- 1-(3). 多職種の医療者がそれぞれの専門性を生かし連携して医療にあたっていることを説明できる。
- 4-(3). 自己の行動を振り返り、自らの行動を変えることができる。
- 7-(2). 自己と患者や住民を含むチームメンバーの専門性や立場を理解し、自己の役割と能力の限界について説明できる。

## 【評価方法】

- 1-(3). 筆記試験
- 4-(3). 筆記試験（振り返り）
- 7-(2). 筆記試験

## 【補習および再評価の方法】

- 1-(3). 再試験該当者は再試験で評価、再試験非該当者はレポート評価
- 4-(3). 再試験該当者は再試験で評価、再試験非該当者はレポート評価
- 7-(2). 再試験該当者は再試験で評価、再試験非該当者はレポート評価